

# 日本女子大学 桜楓会 託児所と

## 丸山千代女史

三年

近藤喜美子

宮崎成子

佐藤信子

柴寿子

下重和子

山本富璫江

### 一 はじめに

我國の保育事業を回顧する時、創設期には多くの問題が有在していた事を知る。中でも託児所事業に関してはその創立について諸説がある。或る説では我國で近代の意味での最初の託児所を桜楓会社会部の桜楓会託児所であると云つてゐる。桜楓会託児所は大正三年に「託児所」と銘打ち当時としては近代的な社会事業精神に立脚して豊かな設備で社会の期待に沿つて運営されたのであるが、敗戦を機として忘れられた存在となつてしまつた。この桜楓会託児所並びにその事業に専心した丸山千代氏をとりあげ、その歴史をみたいと思ふ。

丸山千代氏に関する参考文献が全く見当

らず、千代氏を中心として、桜楓会託児所の発案者である日本女子大学桜楓会理事長井上秀子氏、実妹丸山うめ氏、桜楓会託児所にボランティアとして東大学生時代にサービスされた日本女子大学庶務部長中原賢次氏、社会福祉協議会牧賢一氏、日本女子大学寮監長安東幸子氏、友人で良き協力者であつた日本精神衛生連盟理事長遊佐敏彦氏等の談及び桜楓会家庭週報記事、社会事業年鑑（大正十二年版）、その他当時の新聞、及び雑誌「慈善」「社会事業」、米沢市役所戸籍謄本、千代氏よりの書簡等を参考資料とした。

### 二 出生

千代氏は明治二十年（一八八七年）五月

二十八日山形県米沢市大字館山千四十二番地に父丸山彦一郎母ほのの五人姉妹の第三子として生まれた。父は上杉家の家老筋の出といわれ、（牧氏談）海軍軍人であつたが、上官と意見を異にした為退役し、横浜で貿易商を始め一方海外諸国との交流に語学の必要性を感じ東京牛込に支那語学校を開校した。二、三年後には生徒数百三十名に達したが、東京外語設立の際併合されたといわれる。（千代氏談）母は丸山家とは姻戚関係であつた米沢市元中馬口勞町芹沢普三郎の三女で父孝一郎とは血族結婚であつた。（千代氏、うめ氏談）千代氏は二人のろう啞者を姉妹に持ち、その宿命的な生まれ合せが社会事業に傾倒させる大きな要

因となつた。(千代氏談)

米沢藩では天保の幕政改革の頃名君をい  
ただいていち早く藩政の改革が行われ、質  
実剛健の治世が続き、遅く迄封建色が色濃  
く残つていた。廢藩期に下級武士授産の形  
で設立された米沢製糸株式会社の初代社長  
の元藩主の後に迎えられたのが千代氏の父  
である。明治維新を転機として日本の封建  
社会が絶対主義天皇制の下に再編成されつ  
つ欧米諸外国へ視野を掲げ始めた頃、特に  
武士魂の強固にはびこる閉ざされた一地方  
で千代氏の生涯が始まつた。

### 三 幼・少・青年時代

上級武士の出であつた両親の教育は質実  
剛健主義に沿つて質素儉約を旨とし、働く  
尊さを教え、厳しい躰は、武士の子として  
の体面が何時もあつたという。直接教育に  
當つたのは母であつたが、千代氏にとつて  
は父の無言の教育が、大きかつた。五人兄  
姉妹の中で千代氏は成長するに従いその才  
秀で父は大いに期待をかけた。米沢女学校  
に進む頃は友人付合もなく専ら読書三昧の  
生活で、休み時間には独り校庭の陽差で読  
書に耽つた。上学年になるにつれ禪に興味  
を持ち坐禪の後、夜更けの一本道を雪を踏  
んで帰る事が何度かあつた。所謂女学生時

代によくあるセンチメンタリズム的な傾向  
は少しも持つていながつた。そんな姉が妹  
にとつては近よりがたい姉として記憶にあ  
るといふ。(千代氏、うめ氏談)

この頃から千代氏ははつきりと生涯をろ  
う啞事業に専念し、不幸な姉妹達の杖とな  
る事を意識して、その為専門教育を受ける  
決心をした。日本女子大学で博物を専攻し  
た事について「自分は十幾才の頃からろう  
啞婦人の職業教育、授産、暖いホームの建  
設を考え、そして宗教教育を考えていたか  
ら、博物は宗教教育を養うという雑誌の記  
事をよみ、それで博物を選び先生方の人格  
にふれ、又自然界の神秘に驚いた」と後輩  
への書簡に綴つてゐる。

日本女子大学在学中に最も大きい影響を  
与えたのは成瀬仁蔵校長の実践家としての  
その情熱及び足跡の偉大であつた。学生  
間では校長のかねての念願であつた女子の  
社会事業家養成を反映して社会事業への関  
心が高まり、特に児童問題が論議的であ  
つた。女子大教育学部第二部(博物科)を明  
治四十二年卒業、直ちにろう啞児教育に専  
念する予定であつたがたまさま級友大橋広  
氏(前日本女子大学学長)の紹介で逗子小学  
校に奉職した。正常児も知る必要を認め

からであるといふが同年七月病気の為米沢  
に帰つた。この間も別荘地の子供と地元の  
子供の中にあつて、貧しい地元の子供達の  
思い出は今も尚、忘れ難いといわれる千代  
氏である。

帰省、健康回復後、父の命令で米沢製糸  
株式会社の女工取締役となつて文字通り女  
工と寝食を共にし、彼女等の教育、健康、  
献立、身の上相談等々に尽した。ここでは  
今迄芸無し一方と云われた氏も、お祭には  
ハッピー姿で行列に加わり働く仲間になつて  
楽しんだ。しかしこの生活にも父孝一郎の  
死と共に終止符がうたれ、財産整理の結  
果、武士の商法そのままに一家は窮地に追  
いやられた。善良そのものの兄に代つてろ  
う啞の姉妹をかかえ、一家の柱とならねば  
ならない千代氏は、妹達と近郷の温泉に疲  
れを休め、決心を新たにしている際、桜楓  
会社会部より託児所の主任としての招きが  
来た。(千代氏、うめ氏談)

### 四 日本女子大学桜楓会託児所創立時代

日本女子大学に於ては成瀬校長は常々社  
会事業学部の設置に関心を持たれていた  
が、女子の専門教育を起す丈でも相当の政  
治的配慮を必要とした当時、社会事業学部  
を設立する事は社会状況が許さなかつた。

しかし学課としてそれが許されなくても成瀬校長、井上秀子氏の欧米諸國の研究旅行の結果、セツルメントハウス設立の準備は着々と進められていた。井上秀子氏はアメリカ東部の五女子大学セツルメント及びロンドンのスラム街で特に感銘するところ大きく、その組織を直接女子大に持込みたかつたが組織的に無理であつたので卒業生の団体である桜楓会の手で運ぶ事となつた。

(井上氏談)

対象とする場所の選定は、幾つかの候補地の中から小石川区久堅町八十九番地水川下細民部落附近(通称太陽の街辺り)に決定し、六畳二間、三畳、四畳各一間の長屋と運動場十五坪の地面を借り受け、大体懸案中の幼児保育所規約に従つて主任丸山千代氏、助手武市綾子氏を保姆とし二十名の児童をもち大正二年六月二十七日をもつて開始された。

当時の桜楓会幼児保育所規則とは次の通りである。

「第一、当所は女子大学卒業生の立てて居る桜楓会の仕事で同会が監督し、児供が手廻の為働く事の出来ぬ人々の児供を預かりお守りしてあげるところです。

第二、当所は当時小石川区久堅町八十九

番地に設けて置きます。

第三、当所で預かる児供は当分二十名を限度とする。

第四、預かる児供の年齢は満二年以上六年以下とする。

第五、児供を預かる時間は毎日夏は朝六時、冬は朝七時から夕方、夏冬共六時までとする。

第六、児供の守りをするにはその児供について適当な取扱いをする。

第七、毎月一日と十五日その他盆と正月は休み。

第八、当所に児供を預ける時は、毎日児童を伴れてくる人が金一錢五厘と児供に喰べさせるお弁当とを持つて来るのであります。

当所にてこの内、五厘を児供の貯金にして他を「おやつ」の代に致します。

名称については始めは保育所と付けたのであるが母校評議員渡沢子爵によつて「託児所」と命名され、今日一般にもこの名をもつて称せられる様になつた。(桜楓会家庭週報九三一号)

こうして桜楓会託児所は出発したが、千代氏が主任に決定(大正元年十一月)する迄は人選が非常に困難であつた。たまたま

学生時代よりろう啞教育に専念する意志をはつきりさせていた事が縁となり、井上氏大橋氏によつて推薦された訳である。しかしろう啞教育に入る予定であつた千代氏は、報に接し、着のみのまままで断りに上京したが、断りきれずそのまま引き受ける結果となつてしまつた。千代氏は大急ぎオルガンの練習や千代紙の折り方等目幼幼稚園で教わりながらも幼児に對する関心は湧かず、ろう啞教育の事はばかり考えていた。併し一度児童に接してみても児童との間に生じる愛情の交流は、千代氏をビツタリと託児事業に引きつけてしまつた。(千代氏談)

「託児所開設当初は託児所らしい設備もなく人手も足らず且未経験の保姆二氏の苦心は非常なものであつたが附近細民街の親達からは喜ばれ、子供達は身心共に健康に育ち行く様になり託児の価値は年と共に認められてきた」(家庭週報九三二一號)というが当時の様子を丸山千代氏の託児日記に拾つてみよう。

「開所の日『この様な有難い事はありませぬ。これからは助かります。一錢五厘持つて参りましたが外に幾ら程……』『いいえこの外にはいりません』と答えると内儀さん運はさも不思議な人助けとても感じたら

しく互に顔を見合せる。『夫では坊やおとなしくするんだよ、泣いたり騒いだりすると家に入れないよ』などと繰り返して繰り返して教えてどうぞお願い申しますと叫喚に挨拶して内儀さん達は帰つて行つた。さあ、子供達は泣くは泣くは中にも体格の弱そうな子供は尚更母親の後を慕つて止まない。とうとう玄関の戸を叩いてしまつた。外には珍しそつに沢山の内儀さんやら子供等がのぞくという有様で内外の大騒ぎにしばし酔わされるばかり、並べた玩具を喜んで遊ぶのは十四人中半数に過ぎない。二、三の子供は数時間殆ど泣き通してあつた。〔家庭週報二三一號〕とあるが、日を重ねて行く中に児童も託児所に慣れ、背におんぶしてやると無心にすやすやと眠る様になりその可愛さは又一層であつたという。子供のおむつの仕変えは勿論の事、内儀さん連の生活の相談相手になつて一緒に出産の為の準備をしてやつたり、その献身振り他人の介入する隙を全く与えず、千代氏は若い血をめぐら縞の着物の下に唯一途に細民街の子の為に母の為に協力を惜しまなかつたと云われて居る。(井上氏、うめ氏談)

五 巢鴨託児所時代 (前期)

「開設当時の託児所は設備の不十分と経費

不足に悩んだが一方託児申込は日々にならぬ数を増し、如何にしても拡張が必要となつて来た。そこで桜楓会本部では基本金中から一時借用しても完備した託児所を建築する事としたが、この時はからずも昭憲皇太后陛下の諒暗に際し、御大葬に使用された代々木葬場殿の一部を御下賜の恩命に接したので畏れ多いことながらこれを託児所に使用する事となり、東京府下巢鴨下町一六二〇に建築、総建坪六十三坪託児八十名を収容する事が出来大正四年五月三十日小石川久堅町より移転した。〔家庭週報九三一號〕巢鴨の託児所は東京府がスラム一掃の爲の対策として建てられた投屋部落の中に建築されたもので、大正五年には賑恤御下賜金があり社会的にもその実績が認められて来た。そして単に児童を預かるだけでなく「託児の外に親の会合、一般貧民の会合、講演会も開き託児父母姉へも働きかけて行つた。〔家庭週報九三一號〕こうして地元への浸透運動の続けられている一方大正六年に東京を襲つた大風水害には東京府慈善協会に協力して桜楓会では、巢鴨託児所を第一託児所とし、

- 第二、羽田町穴守稻荷社務所内
- 第三、府下大島町一丁目羅漢寺内

- 第四、深川猿江町六四妙寿寺内
- 第五、深川石島町二四八三峰山大徳講社 社務所内

六 日暮里時代

桜楓会では兼ねてより常設第二託児所の設立が念願であつたが大正九年一月二十六日には、府下日暮里下金杉下り一五九二に日暮里託児所を建築した。

当時、全国の託児所中、東京都管江東託児所、大日本婦人慈善協会古川橋保育所、大阪市弘済会具柄保育所と並んで日暮里保育所は設備が整備していると云われていた。今、桜楓会の日暮里託児所の構造について述べれば同所は歩行児のみを収容する処であつて敷地二一三坪建坪六十六坪で屋外運動場が設けられている。部屋の種類は事務室(支関附設)、保姆室、寢室兼食堂、湯呑室、保姆室二室、女中室、台所、浴室、脱衣所、便所、遊戯室(露台骨敷遊戯場附設)、子供支関である。〔社会事業年鑑大正十二年版〕等玩具から屋外の花壇に至る迄注意が払われていた。

千代氏は日暮里託児所の主任をも兼ね、情熱を注いで務められたらしいが、資料に欠ける為この間の千代氏については詳か

はない。只運営面に於ては、西園寺一家、松方美代子氏等個人的に千代氏を助ける人が現われ寄与する所大であつたと云われて居る。(千代氏談)

### 七 巢鴨託児所時代(後期)

第一次欧州大戦による好況も労働者や農民にはプラスとならず、戦後の不況をも含め深刻な社会問題が抬頭し始めた。大戦に先立つ大正元年(一九一二年)鈴木文治を会長とする労働組合「友愛会」の結成、大正七年(一九一八年)富山県の米騒動又、大正九年(一九二〇年)八幡製鉄所の大ストライキ等々が敢行され、続いて我が国最初のメーデーが行われたと云う時代であつた。この様な気運に對し、他方は例えばセツルメント、協同組合運動等々の形になつて社会運動又社会事業等が現われた。桜楓会託児所は、まさにかかる時代の社会事業としての先駆者であつた。

「大正十年には巢鴨託児所に女子夜学校を置き本科普通科選科の三科に分けそれぞれの指導を行つた。主旨は

皆さん、今の世は婦人でも自分の力で幸福な生活を切り開いていく必要があるばかりでなく、将来の家庭の中心であらねばならない。それには素養がなくてはなりません。

ん。

そこで本校は工場に通う方にも家の手伝をする娘さんにも家庭の主婦にも實際役に立つ知識と技術と信念を養う為に創立しました。」(家庭週報九三一号)以上の主旨によつて集まつた二十九名の人々の生活の向上の為に一般学課から和裁家事音楽に至るまで総ての教育を施しこれも託児所同様附近の労働者家庭から感謝と喜びでもつて利用された。

こうして託児所は段々と拡張されて行く一方、社会の風潮に乗つて協力を申し出る学生達が現われて来た。

千代氏は命ぜられた仕事の中に満足する事なく、常に拡張的アイデアを持つてその実行に努力した人であつた。この実行力は西窓会を生んだが、当時、託児所出身の児童を集めて学習の指導や遊びの指導を行う様になつた。学習指導の方は復習会と呼ばれ今日セツルメントにある勉強会の始まりであるといわれる。其の他母の会の指導、クリスマス等お祭行事の指導等託児以外にも事業は拡張されて行き、次第にセツルメントの様相を備えて来た。この構想は専ら小島幸治郎氏(イギリス経済思想史研究家)の影響に負う所が多かつたといわれ

る。(牧氏談) 拡張された事業には当時東大生であつた中原氏(日本女子大学庶務部長)が大いに寄与された。そして氏及び其の他のポランティヤの人々は桜楓会の事業というよりは丸山千代氏個人の誠実で情熱的実践力に引きつけられたのだという。

### (中原氏談)

### 八 千代氏のプロファイル

学生時代は如何にも武家育ちの娘らしい固さを持つた人であり、(日本女子大学寮監出野氏談)普通の学生の様を特に親しい友人付合もなく自分の殻の中にこもつて何か考えていたといわれる。(千代氏談)

託児事業に入つてからの千代氏には持ちまへの非融通性に加えて一途な情熱と誠実さが加わつたが自分が一生懸命であるだけに信念も亦強く、精一杯の努力を払つた。(中原氏談)所謂男まさりの人であつたから普通なら絶対やれない様な事でも、人間として最大級の努力をした人であつた。然し一面決して途中で妥協出来る人ではなかつた。この個性の強さによつて地元からは神の様に仰がれ、協力者は一そう彼女に引きつけられた。(中原氏、牧氏談)千代氏は、当時の気持ちを後輩への書簡の中で「自分は愛の乏しい人間を悟つたから天地の愛、

人間の愛を自分は吸収せず屈曲せず自分を通して伝えるだけでした。」と綴っている。

託児所事業を後援する人々よりも千代氏個人との関係に於て結ばれた人が多く、(中原氏談) 松方美代子氏は鶯鴨、日暮里託児所出身の児童、夜学生の為に組織された西窓会に組立ハウスを寄贈される等千代氏を非常に助けられた。(千代氏談)

併し自分の総てを傾けて努力した人であつただけに、パイオニア共通の点として自分と同じ情熱で仕事に立ち向う事を何時も周囲に求めたし、自分の言動の絶対性を信じ他に耳を傾ける事も少なかつた。(牧氏談)

### 九 西窓学園時代

千代氏のひたむきな情熱と、良きボランティアの助力と、後援者達の理解とを合せても託児所は事業としての運営が可成り困難であつたらしい。千代氏の理想は実に止る所を知らず、当時の育児事業の先端をいく設備と技術を求め、時としては桜楓会の誤解を招く程の運営振りであつた。(千代氏談) その為、思いつき主義で事が運ばれる事もしばしばで、或時等は、学生達が茶のみ話に修学旅行にも行けぬ児童達に宿泊旅行をさせたいと語っているのを聞いて、

フイと出かけ何処からか金を集めて来て急に旅行を実行してしまつた様な事もあり、(牧氏談) 多分に計画性に欠けていた。愛情から生まれた計画を押し進めるムーブメントにあまりに傾くと同時に組織に欠ける点を考える余裕がなかつた事は千代氏の最大の悲劇であつた。(中原氏談)

「昭和三年鶯鴨第一託児所は、近接して東京市設託児所が設置される事になつたので当託児所はその目的を変え専ら職業婦人の寄宿舎として指導にあたる事として(前述)一時閉鎖し日暮里第二託児所と合併した。」(家庭週報九三一号) しかし地元の要求に答え、千代氏は中原氏やその他学生と共に桜楓会に運動し麻生第二代校長の理解を経て一切の事業を継承し西窓学園と名づけた。閉鎖の理由は経済的に運営が成り立たなかつた為といわれる。(井上氏談)

小石川久堅町以来主任であつた千代氏も昭和八年に引退する事となつたが理由は確かでない。「託児事業に於ける氏の功績は没すべからざるものがあり、桜楓会では大正二年以来二十一年の長きに亘る氏の労苦に報いるため、閉鎖中の鶯鴨託児所と金一封を贈つた。」(家庭週報九三一号)

千代氏所有となつた西窓学園では従来の

事業に加え、兼ねてよりの念願であつたらう啞婦人の家を設立、彼女等の為に職業教育を始めた。和洋裁、織物等の知識を授ける為には美校出の教師を集め、一般教養に於ても公立ろう啞学校の教師の出張を得る等充実した内容であつた。(昭和九年)

昭和三年、千代氏の桜楓会託児所所在職中共労者を得て創立された西窓会は、松方美代子氏の組立家屋寄贈によつて砧村に建築されたが、昭和六年渋谷水道の拡張の為取払い閉ざされた。途中、鶯鴨の事業一切が継承されて西窓学園となつたが、「西窓」とは協力した早稲田大学学生(氏名不詳)に依り仏の慈悲の入る窓という意を以て命名された。(千代氏談) 西窓学園の園長は千代氏であつたが、実際の組織活動の指導は中原氏や牧氏によつて行われていつた。

(中原氏談)

「昭和二十年三月日暮里第二託児所は空襲に依つて焼却した。」(家庭週報九三一号) 西窓学園も又、昭和十六年には昼間のみ幼児保育を再開した事もあるが昭和十八年幼児の疎開を親に進め、ろう啞婦人も次第に帰国させ、昭和十九年十一月夜学も閉じて、同十二月建物は東京女子高等師範学校児童科の実習所として売却された。そして

それは使用される事なく焼却されてしまつたが、この後千代氏は数名のろう啞者と伴に郷里米沢に帰つた。(千代氏談)

### 十 千代氏の思想

「私は今迄(女子大入學迄、筆者註)禪の修行をして来ました。」と筆者に綴つた書簡にあるが、女子大入學後はキリストの教えに相当影響された。ミス・ワイズワス、ミス・フィリップスによつてキリストの足跡を歩む心組みが出来、社会事業を行う心の備えが出来た。(千代氏談)併し洗礼は受けず結局は晩年の成瀬仁蔵氏の提唱された婦一協会の思想に共鳴同調して行つた。明治の先駆者の多くがそうである様に彼女も又、武家育ちの氣風を多分に残しながら反面新時代の感覺を備えていた。西窓学園時代表若い人達と論争する時は全く明治的困窮主義者の立場を取りながら、キリスト教的社会主义を匂させたという。(牧氏談)それは前述の如く小島幸治郎氏の影響に依るものである。しかし後、禅宗を越えキリスト教を越え婦一協会の趣旨に賛同するに至つた千代氏にとつて最も影響を与えたのは成瀬仁蔵氏であり、千代氏の活動の中心であるイズムは結局、成瀬氏の思想そのものであつたと諸氏が結論を下して居る。

### 十一 おわりに

桜楓会託児所は単に貴婦人の慈善として見られるむきが強く、(牧氏談)千代氏も時には桜楓会に対してそう云つた抵抗を感じたこともあつた。(千代氏談)しかし労働者階級の為に行われた事自体は、慈善の域を越え明日に繋がる近代的精神を多分に含んだ事業であつたと思われる。

このように桜楓会託児所の眞価が認められると同時に、千代氏自身はインテリとブルジョアの両方の側からも認められ、他方地元からも絶対の信頼を得た。しかし極端な迄にジャーナリズムの波に乗る事をさけた感がある。學識の面からも実行力の面からいつても名実共に当時の保育事業界のナンバーワンであつた千代氏であつたが、特に二葉保育園徳永ゆき氏と比較されるのを嫌つて筆を持つたり語る事をさけたと云われて居る。(牧氏談)それは行績の偉大さにもかかわらず、今日千代氏の蔭を弱めた一因でもあろう。こうして保育事業の先達の道を地道に歩んだ人であつたから事業界の代表的人物として尊敬された。(牧氏談)米沢帰郷後は、育児事業やろう啞事業に専念しようにも他國者であると同時に、中央事業界にて完成された一個の存在として

の千代氏にとつて与えられるポストはなかつた。戦後上京して暫く北多摩郡下の「めぐみ保育園」で保育を務めた(遊佐氏談)が千代氏の働く場所ではなかつた様である。退職されて以後、七十余才の今日尚、千代氏の心にろう啞教育に尽すべく灯は点じ続けられているといわれるが敗戦を転機として現在の社会事業界からは遠い存在になつてしまつた。この理由は社会事業そのものが個人の意気や魅力で運営された時代から、科学的に分析され組織化された近代のものとして成長した事、そして千代氏の性格がそれに適応出来なかつた事、新しい社会事業の技術がアメリカから輸入され、所謂専門的技術者が必要となつて来た事等であらう。

しかし、千代氏が活躍して居られた大正期の当時の日本の社会状態を考える時、偲念の人千代氏でなければ社会事業の先駆者としてあれ程、活動し得なかつたのではなからうか。

形の上では現在空しく消えた千代氏の事業を先輩の偉業として認めながら、一方新しい時代の社会事業家の在り方を主体的につかむ一資料として、考えてみたいと思ふ。